

# 西光寺だより

第三十四号 平成二五年 六月一日発行

今年も早や半年が経ち、梅雨の時期を迎える季節となりました。長雨が続きと気が滅入りがちになりますが、六月に降る雨は冬の冷たい雨とは違って、夏の匂いをいっぱい含んで地面に潤いを湛えているようです。

そして、しとしとと降り続く雨を楽しむかのように、かたつむりがゆつくりゆつくりと進んでいきます。その姿はあまりにもゆつくりで、天敵から身を守らなければならぬ自然界においては、珍しいことだと思います。それでも、かたつむりの視点から見ると、世の中がとてもよく見えているのではないかと感じることがあります。

何事も早いのが良しとされがちな傾向の中で、実は見落としてしまっている大切なことがたくさんあるのではないのでしょうか。その一つには、自分を見つめ直すということも含まれているように思えます。

今の自分が自分自身のために出来ること、誰かのために出来ること、日常の中に埋もれて忘れてしまいがちな自分の在り方をときにはじっくりと見つめ直すことも必要なのではないかと思います。

かたつむりから見ると、常に何かに追われがちな私たちは滑稽にさえ見えるかもしれませんね。自分の家を背中にしよってゆつくりと歩かたつむり。自分の在りかをきちんと背負い、天敵に追われても慌てず急がずその身を預け、時には私たち人間の目さえ癒してくれるその姿には、学ぶところがたくさんあるように感じます。

外に出るのが億劫になるこの時期ですが、見方を変えれば長雨のしつとりとした時間の中、これまでの半年の自分を振り返り、これからの半年の自分を考えることの出来る、良い機会になるかもしれません。



## ● 今月のことば ●

### 雅楽と本願寺

雅楽といえば、皇室行事や神社で奏されるイメージの方が多いと思いますが、元来は仏教文化と深いつながりのある音楽であり、古来より奏されています。

日本に仏教が伝来して、それを仏教普及に熱心であった聖徳太子が国内に広めるために音楽が必要と考え取り入れたのが、仏教との縁の始まりであるといわれています。その後、節をつけて唱える声明と併せて雅楽文化を形成し発展してきました。

このように仏教と関わりの深い雅楽ですが、本願寺のように、法要の作法の中に雅楽の音色が聴かれる例は、それほど多くはありません。

歴史的には『法流故実条々秘録』に「御堂御法事に楽初り候ハ、准如上人御代寛永三年丙寅春」と記されており、本願寺の法要で雅楽が依用されはじめたのは、第十二代准如上人（江戸初期）である事がわかります（寛永二年を最初とする記録も存在する）。

以来今日まで、本願寺の法要は雅楽抜きでは語る事のできないものとなり、また歴代宗主が親しまれていた事も関係しているでしょう。

今日の本願寺では、報恩講などの各種法要において、結衆の入堂時や登礼盤などの作法の折に、雅楽の古典曲が演奏されます。また、声明をお勤めする際にも、付楽が演奏されるなど、雅楽の音色が法要の厳かな雰囲気を作り上げています。

本願寺で用いられるものは、三つの管楽器と三つの打楽器があります。三つの管楽器は、龍笛・篳篥・笙と呼ばれるものであります。

龍笛（竹製の横笛。由来は、音色が龍の泣き声をイメージしている）

篳篥（龍笛と同じ竹製の縦笛）

笙（十七本の細い竹を縦に丸く並べた楽器で、その形が伝説の鳥・

鳳凰の翼を立てた姿に似ていることから、鳳笙とも呼ばれる。

そして、三つの打楽器は鞆鼓・太鼓・鉦鼓と呼ぶ打ち物があります。

このように雅楽は、日本の伝統音楽の中でも、数少ない、そして最も歴史が長い、器楽合奏の形態をとる音楽であります。西洋音楽でいえば、オーケストラということになるでしょうが、一番の大きな違いは、指揮者がいない事でしょう。演奏者同士が息を合わせながら、音楽をつくる、その合奏の妙技こそが、雅楽の聴きどころでしょう。

(本願寺新報 雅楽と本願寺より)

皆様もぜひ本願寺での法要にご参加いただき、凛とはりつめた御堂の空気をあじわいながら、お浄土の響き・雅楽の音色を聴かせて頂きましょう。私も本願寺の報恩講に楽人として参加できるように日々精進させていたただきたいと思えます。

## ◆先月の報告◆

①五月十二日(日)午後七時より西光寺講総会を西光寺本堂にて行いました。二十五名の講員の皆様と讚佛偈のお勤めをさせていただきました。平成二十五年度の役員表の説明、行事報告、平成二十四年度会計報告をさせていただきました。

新たな議題である「葬儀に関する申し合わせ」について皆様と議論を重ねさせていただきました。今までは西河原自治会として葬儀法札を決定され、平成九年に改訂されてきましたが、自治会の運営も新しい方々が参加され近隣寺院との兼ね合いも考慮し、この度新たに自治会ではなく西光寺講として平成二十五年五月より新たに「葬儀に関する申し合わせ」を作成させていただきました。六月には皆様に配布致します。ご報告させていただきます。六月には皆様に配布致します。

そして平成二十五年度の新たな役員の皆様、新たな役職をお引き受け下さった皆様どうぞこれからも宜しくお願い致します。そして前講長・前住職が亡くなってからすぐに講長を引き受けて下さり、講員はもちろん西光寺をここまで引つ張って下さった寺田一雄様、本当に今

までありがとうございました。これからも相談役としてそして筆頭総代としてよろしくお願いいたします。そして今年度より新講長としてお引き受け下さった吉田紀夫様、これからもどうぞよろしくお願い致します。

②五月十五日(水)午前十一時より西光寺本堂にて毎川家初参式を厳修致しました。一つ欠けることなく繋がってきた命のバトンがこうして新たな命に繋がっているというご縁を感じながらご家族皆様でお念仏させていただきます、お焼香をいたしました。

毎川 美桜ちゃん・ご家族の皆様本当におめでとうございました。

合掌



浄土真宗本願寺派 白毫山 西光寺

大阪府茨木市西河原一七二

電話 〇七二一六二二一四七九四

FAX 〇七二一六二二一九二九一

<http://www.osaka-saikouji.net/>